



『十訓抄』の研究状況と参考文献目録：
付『寢覚記』参考文献目録

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 北海道教育大学 公開日: 2012-11-07 キーワード: 作成者: 上岡, 勇司, 菅原, 利晃 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.32150/00004200

『十訓抄』の研究状況と参考文献目録

— 付 『寢覚記』参考文献目録 —

上岡勇司・菅原利晃

一 『十訓抄』研究の展開と現状

『十訓抄』の研究は、その儒教的側面によって、大きく時代の波を受けた、と言ってもよいだろう。『十訓抄』が好意的に受け容れられた時期もあれば、あまり歓迎されなかった時期もあったのである。これについて、『日本短篇物語集事典』（東京美術・昭51・10）の「十訓抄」解題（執筆者は小峯和明氏）によれば、

戦前は儒教モラルの盛行にのって、注釈書がかなりだされている。戦後は主に作者の面からの考察がなされているが、文学の問題として『十訓抄』を正面からとらえ返した研究はまだ余りみられない。

と記されている通りである。つまり、戦前は、儒教的側面によって多くの研究書や論文がなされたが、戦後の昭和20年代以降は、それらはほとんどなされなかったのである。

特に、本文・テキストに限って言えば、昭和17年発行の岩波文庫までは、国史大系や校註国文叢書など数多くの本文提供がされていたのにもかかわらず（目録1の1～13参照）、以後は、昭和45年のすみや書房刊古典資料の影印本（目録1の14参照）、昭和51年の古典文庫（目録1の15参照）刊行まで、30年近くの空白期間があるような惨々たる状態であった（ただし、岩波文庫の昭和32年第二刷発行などの重刷はあった）。

したがって、『十訓抄』の研究が本格的に展開されたのは、つい最近のことと言ってもよい。かように、『十訓抄』の研究は、終戦時の皆無なる状態から、徐々に進展されたものであり、最近になって、本文・テキスト・索引が刊行され、諸本伝本の研究がおこなわれるようになり、漸く研究の素地が整ったとも言える。

このことは、言い換えれば、『十訓抄』の研究が、明治時代からあまり発展していなかったことでもある。それは、つまり、『十訓抄』の研究が、明治時代の石橋尚宝氏『十訓抄詳解』によって最高峰に達し、それ以上の研究書が存しないということでもある。この『十訓抄詳解』は、『十訓抄』研究の上で、必要不可欠のもの、今もって最高の水準を示すものであることは否めない。なぜなら、『十訓抄』全編にわたる注釈書は、この『十訓抄詳解』と岡田稔氏『十訓抄新釈』の二書しか存しないからである。つまるところ、『十訓抄』研究は『十訓抄詳解』によってはじまり、『十訓抄詳解』によって終わる、と言っても過言ではない。かように、『十訓抄』の研究は、実は、明治の『十訓抄詳解』の域を脱していないと言えるのである。

さて、戦後の『十訓抄』の研究は、前述の通り、その儒教的側面はおさえられ、出典・伝承関係に関する論や作者についての論考が多くなった。この分野では、永井義憲氏（目録6の5, 6, 7, 10, 11, 21参照）、志村有弘氏（目録6の13, 14, 17, 18, 22, 30参照）、乾克己氏（目録6の12,

15, 23, 29参照)らのすぐれた諸論がある。また、諸本・伝本・語法・文体に関する論文も戦後は多く、これには泉基博氏のすぐれた論がある(目録5の2, 3, 4, 5, 6, 7, 7の2, 3, 4, 9, 10, 11, 12, 13参照)。また、氏は、はじめて『十訓抄』全編にわたる索引を作成し(目録7の11参照)、また、テキスト・本文を提供し(目録1の15, 16, 17, 18参照)、『十訓抄』の研究に大きく貢献した。このように、戦後の『十訓抄』の研究は、儒教的側面での考察は少なくなったといえるが、また一方で、最近、『十訓抄』を教訓・道徳・教育の面から考察する論も少数ながら復活しつつある(目録9の33, 49, 60, 81, 83, 86参照)。

ここで、国語教育界に目を向けると、『十訓抄』は、依然として教科書・受験参考書に根強い人気を有していることが目につく。例えば、『十訓抄』所載説話は、「安養の尼の小袖」「笛吹成方の大丸」など多くが、戦後から現在までの教科書に採択されている。また、『十訓抄』の説話を解釈・解説する受験用参考書や問題集も多い(目録3参照)。つまり、最近では、儒教的側面ということ云々よりも、古文入門教材としての『十訓抄』、または、受験のための『十訓抄』という側面が加わっていると言える。

二 『十訓抄』参考文献目録作成にあたって

前述の通り、『十訓抄』ほど、中世説話集の中で、その価値が叫ばれながら、注釈書・索引・テキストが充分でなかった作品もめずらしい。加えて、『十訓抄』だけの参考文献目録に関して言えば、いまだ存していない状態である。このことは、例えば、他の中世説話集では、

- 『宝物集』 瓜生等勝氏「宝物集研究文献目録」(『解釈』昭45・7)
- 『発心集』 林雅彦氏「鴨長明『発心集』研究文献目録」(『説話文学研究』10・昭50・6)
- 『撰集抄』 宇佐美雅子氏・近藤みどり氏・佐々木あやみ氏「『撰集抄』研究文献目録」(『椋山国文学』3・昭54・2)
- 『古事談』 志村有弘氏「『古事談』研究文献目録」(『古事談』教育社新書58・教育社・昭55・8)
- 『沙石集』 吉海直人氏「沙石集関係文献目録」(私家版・昭56・3)
吉海直人氏「沙石集関係文献目録」(『国学院大学大学院文学研究科論集9』昭57・7)
- 『宇治拾遺物語』 増古和子氏「『宇治拾遺物語』を読むために」(『完訳日本の古典40 宇治拾遺物語(一)』昭59・10)

などがあるのに対して、『十訓抄』の研究文献目録は存しないのである。『十訓抄』は、他の中世説話集に比べて、注釈・索引・本文、そして参考文献目録と、常に後手にまわっている感がある。

今回、この「『十訓抄』参考文献目録」を作成したのは、これら中世説話集の参考文献目録があるのに対して、『十訓抄』のそれがないことを痛感してのことである。不備が多いとは思いますが、『十訓抄』研究の一助として、これが活用されることを祈ってやまないものである。また、できれば今後、補正していきたいと思う。

また、『十訓抄』参考文献目録の終わりに「『寝覚記』参考文献目録」を付した。『寝覚記』(ねざめのき)は、一条兼良作とされる、鎌倉末期成立の教訓説話集である(ただし、作者を一条兼良とすることに否定的な見方は多い)。『十訓抄』が影響を与えた書には、『古今著聞集』や『東斎隨筆』

などがあるが、これらのうち最も大きく影響を与えられたのが、この『寝覚記』である。すなわち、十篇目の構成、篇目の相似、七十九箇所以上に及ぶ『十訓抄』からの説話・金言・評語の引用など、『十訓抄』との関わりが深い。これについて、小林忠雄氏は、「第二の十訓抄」とも呼んでいるほどである（『寝覚記新考—主として其の出典、著作年代、著者の問題に就いて—』『日本文学研究18』昭25・8、目録付4参照）。今回、『十訓抄』参考文献目録に『寝覚記』のそれを付したのは、『十訓抄』と深い関わりをもつ『寝覚記』の研究が、『十訓抄』の研究に少なからず有益であると考えてのことである。この『寝覚記』の研究史に関しては、原田行造氏の『中世説話文学の研究』下（桜楓社・昭57・11、目録付12参照）に詳しく述べられているので、ここでは触れず、参考文献を挙げるにとどめておきたい。

なお、『十訓抄』参考文献目録と『寝覚記』参考文献目録の作成にあたっては、『国語国文学年鑑』、『国語国文学研究文献目録』、『国文学研究文献目録』、『国文学年鑑』、『国語年鑑』、『国文学解釈と鑑賞』、『国文学解釈と教材の研究』、『国語と国文学』の各号を参考とした。また、説話関係の研究文献目録としては、川口久雄「今昔物語集関係研究文献目録ノート」（『文学』昭30・4）、永井義憲「日本仏教文学関係論文目録抄」（『日本仏教文学研究』古典文庫・昭32・3）、田口和夫・中野猛「説話文学研究文献目録」（『国文学』昭33・11）、河内山清彦「説話文学研究文献分類目録」（『国語と国文学』昭37・10）、「説話文学研究文献目録」（『国文学解釈と鑑賞』359・昭40・2）、志村有弘「説話文学研究文献総覧」（『説話文学辞典』昭44・3）、中野猛「説話文学関係文献目録」（『都留文科大学研究紀要』7・昭46）、石橋義秀「仏教説話研究参考文献」（『仏教説話研究と資料』法蔵館・昭52・4）、石橋義秀「仏教説話文学書目録稿」（『仏教文学研究』第二期（二）・昭54・4）、説話文学会編「説話文学関係参考文献目録」（『説話文学研究』15・昭55・6）、林雅彦「説話文学研究文献目録」（『国文学解釈と鑑賞』昭59・9）、中野猛・稲垣泰一・岡崎和彦「説話文学関係文献目録」（『今昔研究年報』1号～笠間書院）などを利用したことを記しておきたい。

『十訓抄』参考文献目録 ・ 付 『寝覚記』参考文献目録

凡 例

- 1 「論文題名・書名」但し、単行本に於いて、論文題名や項目や章が特にしるされている場合は、それをしるした。その場合、単行本名は「所収書誌名・叢書名」に示した。
- 2 「執筆者名」編者名・校注者名も記した。また、辞典等で執筆者名がしるされている場合は、編者名ではなく、執筆者名をしるした。
- 3 「所収書誌叢書名」所収書誌名を記した。叢書名・シリーズ名がある場合も示した。
- 4 「発行所」出版社名、発行大学名をしるした。
- 5 「発行日」年月までとする。
- 6 配列は発行年月日順にした。但し、「8『十訓抄』各話関係論文」は説話番号順とした。
- 7 文献は、大きく九つの分類（テキスト・本文、研究書・注釈など）に分けたが、重出する場合もある。
- 8 「8『十訓抄』各話関係論文」の「備考」には、岩波文庫の説話番号を記した。

1 『十訓抄』テキスト・本文

番	論文題名・書名	執筆者名	所収書誌叢書名	発行所	発行日	備考
1	十訓抄・公事根源	萩野 由之	日本文学全書22	博文館	明25. 2	
2	百万塔	中根 淑	百万塔	金港堂	明25.	
3	校正十訓鈔	鈴木 弘恭			明27.	
4	宇治拾遺物語・古事談・十訓抄	西島 政之	国史大系15	経済雑誌社	明34. 10	
5	十訓抄詳解	石橋 尚宝		明治書院	明35. 7	
6	方丈記 徒然草 十訓抄 古今著聞集	古谷 知新	国民文庫11	国民文庫刊 行会	明43. 1	
7	十訓抄	池辺 義象	校註国文叢書18	博文館	大4. 11	
8	十訓抄	物集 高量	校註日本文学叢書	博文館	大7.	
9	校註十訓抄	石橋 尚宝		明治書院	大11.12	
10	十訓抄新釈	岡田 稔		大同館書店	昭2. 5	
11	宇治拾遺物語・古事談・十訓抄	黒坂 勝美	新訂増補国史大系18	吉川弘文館	昭7. 10	
12	十訓抄新講	岡田 稔		大同館書店	昭14.	
13	十訓抄	永積 安明	岩波文庫	岩波書店	昭17. 9	
14	十訓抄 上下	志村 有博	古典資料10・11	すみや書房	昭45. 2 ~11	
15	十訓抄〈片仮名本〉	泉 基博	古典文庫352・359	古典文庫	昭51. 4 ~9	
16	十訓抄 本文と索引	泉 基博	笠間索引叢刊78	笠間書院	昭57. 12	
17	御所本十訓抄 上中下	泉 基博	笠間影印叢刊77~79	笠間書院	昭58. 4	
18	彰考館蔵 十訓抄 第三類本	泉 基博		和泉書院	昭59. 1	

2 『十訓抄』研究書・注釈書

1	十訓抄詳解	石橋 尚宝		明治書院	明35. 7	
2	校註十訓鈔	石橋 尚宝		明治書院	大11. 12	
3	十訓抄私記補遺	矢野 玄道 木野戸勝隆			大13.	
4	十訓抄新釈	岡田 稔		大同館書店	昭2. 5	
5	十訓抄私記	矢野 玄道	未刊国文古註釈大系 14	帝国教育会 出版部	昭9. 9	
6	十訓抄新講	岡田 稔		大同館書店	昭14.	
7	正統古事談十訓抄私記	小泉 道	愛媛大学古典叢刊22	愛媛大学	昭51. 6	

3 『十訓抄』受験用参考書

1	説話文学	竹野 長次		學燈社	昭27. 5	
2	通解対照 説話物新釈	山岸 徳平		金子書房	昭27.	
3	必須説話文学集	須藤 増雄		研究学院	昭29.	
4	説話文学要解	内野 吾郎		有精堂	昭30. 10	

『十訓抄』の研究状況と参考文献目録

5	十訓抄	峯村 文人	學燈文庫	學燈社	昭31. 6	
6	説話文学	斎藤 清衛	国文学習叢書	旺文社	昭32. 6	
7	文法詳解 十訓抄新釈	大熊 五郎			昭37.	
8	宇治拾遺物語・十訓抄新解	高橋 和彦	要所研究シリーズ	新塔社	昭43. 7	
9	要説 今昔物語・宇治拾遺物語・十訓抄・沙石集・古今著聞集・古本説話集	日栄社編集所	要説シリーズ	日栄社	昭43. 10	
10	十訓抄古今著聞集要解	高橋 貢	文法解明叢書	有精堂	昭44. 3	
11	説話文学	竹谷長二郎	古典重要問題選	笠間書院	昭46. 4	
12	十訓抄・古今著聞集	長瀬 治	古典解釈シリーズ	旺文社	昭52. 1	
13	十訓抄・方丈記・唐物語	横山 青娥		塔影書房	昭55. 9	
14	今昔物語・宇治拾遺物語 付十訓抄・古今著聞集	西谷 元夫	明解〔国語Ⅰ・Ⅱ〕 古典シリーズ6	有朋堂	昭57. 5	
15	応用古文④説話	旺文社	国語スピード学習⑬	旺文社	昭60. 2	
16	宇治拾遺物語 付十訓抄・古今著聞集	西谷 元夫	明解シリーズ36	有朋堂	昭63. 5	
17	説話抄の問題研究	岡田 長司		研数書院	平1. 3	
18	今昔物語・宇治拾遺物語 付十訓抄・古今著聞集	西谷 元夫	必読古典シリーズ8	有朋堂	平2. 11	

4 『十訓抄』解題・文学史

1	十訓抄	藤岡作太郎	鎌倉室町時代文学史	大倉書店	大4. 5	
2	十訓抄	野村 八良	鎌倉時代文学新論	明治書院	大11. 12	
3	十訓抄	野村 八良	増補鎌倉時代文学新論	明治書院	大15. 5	
4	十訓抄	野村 八良	近古時代説話文学論	明治書院	昭10.	
5	十訓抄	横山 青娥	日本古典(下)	長崎書店	昭18. 2	
6	今昔物語集に於ける指導理念	片寄 正義	今昔物語集論	三省堂	昭19. 3	
7	第六講近古文学の一	芳賀 矢一	国文学史十講	酣燈社	昭26. 1	
8	十訓抄	吉沢 義則	鎌倉文学史	東京堂	昭27. 4	
9	説話文学	野村 八良	近古文学史論	明治書院	昭27. 10	
10	十訓抄	高木市之助	岩波小辞典 日本文学一古典一	岩波書店	昭30. 9	
11	国文学史	守随 憲治		東京大学出版会	昭31. 11	
12	国文学史綱	板垣 市蔵		明治書院	昭31.	
13	十訓抄—その成立と作者—(説話文学作品研究)	永井 義憲	国文学解釈と教材の研究3・11	學燈社	昭33. 10	
14	中世説話文学	築瀬 一雄	岩波講座日本文学史6	岩波書店	昭34.	
15	十訓抄	長野 管一	日本文学鑑賞辞典	東京堂	昭35. 12	
16	十訓抄	荒木 良雄	中世鎌倉室町文学事典	春秋社	昭36. 9	

17	十訓抄	志村 有弘	説話文学辞典	東京堂	昭44. 3
18	十訓抄	久松 潜一	日本文学史 3 中世	至文堂	昭46. 4
19	中世説話文学研究史	中野 猛	日本文学研究資料叢書 説話文学	有精堂	昭47. 11
20	十訓抄の世界	永積 安明	日本の説話 4 中世Ⅱ	東京美術	昭49. 6
21	十訓抄 (中世文学事典)	市古 貞次	国文学解釈と教材の研究 21・11	学燈社	昭51. 9
22	十訓抄	小峯 和明	日本短編物語集事典	東京美術	昭51. 10
23	十訓抄の世界	永積 安明	中世文学の可能性	岩波書店	昭52. 6
24	日本文学全史 中世	久保田 淳		学燈社	昭53.
25	中世日本文学史	有吉 保	有斐閣双書	有斐閣	昭53.
26	十訓抄	小峯 和明	研究資料日本古典文学 3 説話文学	明治書院	昭59. 1
27	十訓抄	永積 安明	日本古典文学大辞典	岩波書店	昭59. 4
28	十訓抄	志村 有弘	日本伝奇伝説大事典	角川書店	昭61. 10
29	世俗説話集	野口 博久	日本伝奇伝説大事典	角川書店	昭61. 10
30	十訓抄	志村 有弘	説話文学史一説話文学 小事典一	明治書院	昭62. 4
31	十訓抄	小島 孝之	別冊国文学33今昔物語集 宇治拾遺物語集 必携	学燈社	昭63. 1
32	説話の世界	浅見 和彦	日本文学新史中世	至文堂	平2. 7
33	今昔物語集・古本説話集・十訓抄	篠原 昭二	別冊国文学40新・古典文学 研究必携	学燈社	平2. 11
34	十訓抄	貴志 正造	鎌倉事典	東京堂	平3. 12
35	十訓抄	福島 尚	説話の講座 4・説話集 の世界Ⅱ 中世	勉誠社	平4.

5 『十訓抄』 諸本・伝本に関する論文

1	十訓抄の古版本に就いて	小林 忠雄	日本文学研究10	日本文学研究会	昭25. 3
2	書陵部本「十訓抄」について	泉 基博	武庫川女子大学紀要	武庫川女子大学	昭47. 10
3	十訓抄の伝本について	泉 基博	武庫川国文 5	武庫川女子大学	昭48. 3
4	十訓抄(片仮名本)に於ける本文批評 一第七可専思慮事について一	泉 基博	武庫川国文12	武庫川女子大学	昭52. 3
5	十訓抄(片仮名本)における本文批評 一第十の後半について一	泉 基博	武庫川女子大学紀要 25国語国文学科編	武庫川女子大学	昭53. 2

『十訓抄』の研究状況と参考文献目録

6	十訓抄（平仮名本）の本文について— 十訓抄序からの考察—	泉 基博	武庫川国文14・15	武庫川女子 大学	昭54. 3	
7	十訓抄（片仮名本）の本文について	泉 基博	語文35	大阪大学	昭54. 4	

6 『十訓抄』作者・成立・伝承・出典に関する論文

1	十訓抄典故考	岡本 保孝	況斎叢書			
2	十訓抄典故考	岡本 保孝	未刊国文古註積大系 14	帝国教育会 出版部	昭9. 9	
3	十訓抄の著者に就いて	回陽 博道	国語国文5・7	京都大学	昭10. 7	
4	古今著聞集の研究	宮田和一郎	古典研究		昭16. 8	
5	十訓抄の作者	永井 義憲	国語と国文学29・9	東京大学	昭27. 9	
6	十訓抄の作者	永井 義憲	日本仏教文学研究	古典文庫	昭32. 3	
7	十訓抄—その成立と作者—（説話文学 作品研究）	永井 義憲	国文学解釈と教材の 研究3・11	學燈社	昭33. 10	
8	古今著聞集の増補と十訓抄	中島 悦次	国学院雑誌59・10・ 11	国学院大学	昭33. 10 ・11	
9	「発心集」と「十訓抄」	築瀬 一雄	国語と国文学36・6	東京大学	昭34. 6	
10	十訓抄の作者	永井 義憲	日本仏教文学研究1	豊島書房	昭41.	
11	十訓抄—その成立と作者再考—	永井 義憲	日本仏教文学研究2	豊島書房	昭42. 4	
12	十訓抄の作者は菅原為長か	乾 克己	国学院雑誌68・5	国学院大学	昭42. 5	
13	十訓抄の説話配列と作者—菅原為長説 考—	志村 有弘	日本文学21	立教大学	昭43. 12	
14	為長	志村 有弘	説話文学辞典	東京堂	昭44. 3	
15	十訓抄と菅原為長補説	乾 克己	国学院雑誌70・4	国学院大学	昭44. 4	
16	十訓抄と悦目抄	泉 基博	武庫川国文3	武庫川女子 大学	昭46. 3	
17	説話文学伝承関係小論—十訓抄古今著 聞集を中心として—	志村 有弘	説話文学研究7	早大学説話 文学会	昭47. 9	
18	『十訓抄』の編者について—菅原為長 説再考—	志村 有弘	国文学研究9	梅光女学院 大学	昭48. 11	
19	十訓抄に於ける出典からの説話形成に ついて	泉 基博	武庫川国文7	武庫川女子 大学	昭50. 3	
20	菅原為長と源顕兼との交友関係—「十 訓抄」の編者考	北村 雅人	新樹1	梅光女学院 大学大学院	昭53. 2	
21	十訓抄と北条重時の家訓—作者湯浅宗 業の環境—	永井 義憲	大妻女子大学文学部 紀要10	大妻女子大 学	昭53. 3	
22	日蔵説話の成立と展開—「十訓抄」編 者菅原為長に関連して—	志村 有弘	説話文学の世界2宇 治拾遺物語	笠間書院	昭54. 5	
23	十訓抄と菅原為長再論	乾 克己	宇治拾遺物語	笠間書院	昭54. 5	
24	『十訓抄』と菅原為長—為長・長明・ 顕兼の交流にふれて—	志村 有弘	論纂説話と説話文学	笠間書院	昭54. 6	

25	菅大府卿為長伝小考	山崎 誠	国語国文48・7	京都大学	昭54. 7	
26	菅原為長撰文鳳抄伝本攷	山崎 誠	国文学攷86	広島大学	昭55. 6	
27	源平盛衰記と十訓抄について	大羽 吉介	説話文学論集	大修館書店	昭56. 7	
28	菅原為長	大曾根章介	日本古典文学大辞典	岩波書店	昭59. 4	
29	菅原為長	乾 克己	日本伝奇伝説大事典	角川書店	昭61. 10	
30	菅原為長	志村 有弘	説話文学史—説話文学小事典—	明治書院	昭62. 4	
31	『十訓抄』と『明文抄』—出典攷証から見た「為長作者説」批判—	村上美登志	立命館文学520	立命館大学	平3. 3	

7 『十訓抄』語法・文体に関する論文

1	十訓抄に現れた代名詞	菊沢 季生	国語研究10		昭25. 3	
2	十訓抄と悦目抄	泉 基博	武庫川国文3	武庫川女子大学	昭46. 3	
3	古今著聞集に取り入れられた十訓抄の本文について	泉 基博	武庫川国文4	武庫川女子大学	昭47. 3	
4	寝覚記に取り入れられた十訓抄の本文	泉 基博	武庫川国文6	武庫川女子大学	昭49. 3	
5	宇治拾遺物語の伝承と文体(3)—十訓抄関係語をめぐって—	小峯 和明	文芸と批評4・5	早稲田大学文学部	昭51. 1	
6	十訓抄の文章について—接続語を中心として—	楢田 良照	語文研究41	九州大学	昭51. 3	
7	十訓抄人名人物総索引	石井 清文 福田 広子		政治経済史学会	昭52. 12	
8	書陵部本『十訓抄』の尊敬表現	石井 幸子	東洋大大学院紀要文学研究科16	東洋大学	昭55. 2	
9	十訓抄に於ける「優」「やさし」	泉 基博	武庫川国文17	武庫川女子大学	昭55. 3	
10	『十訓抄』に於ける敬語意識	泉 基博	国語語彙史の研究3	和泉書院	昭57. 5	
11	十訓抄 本文と索引	泉 基博	笠間索引叢刊78	笠間書院	昭57. 12	
12	『十訓抄』の仮名遣いについて	泉 基博	武庫川国文21	武庫川女子大学	昭58. 3	
13	十訓抄の表記—御門・帝—	泉 基博	武庫川国文27	武庫川女子大学	昭61. 3	

8 『十訓抄』各話関係論文(備考の説話番号は岩波文庫本による)

1	十訓抄序と白氏文集	丸山 茂	漢学研究13・14	日本大学		序
2	「十訓抄」の序と東山枝橋の菅家墓所	乾 克己	和洋国文研究20	和洋女子大学	昭60. 3	序
3	「必シモ筆ノツキエ多カラス」(「十訓抄序」)考	泉 基博	武庫川国文38	武庫川女子大学	平3. 11	序

『十訓抄』の研究状況と参考文献目録

4	「十訓抄の余五大夫」（古典文学作中人物事典・中世文学の作中人物一七〇人）	乾 克己	国文学解釈と教材の研究（臨時増刊）34・9	学燈社	平1. 7	1-6
5	『十訓抄』第一篇第二六所収話の解釈	福島 尚	鳴門教育大学研究紀要6人文社会科学篇	鳴門教育大学	平3. 3	1-26
6	院政時代と隨身—下毛野武正を通して—	渡辺 晴美	日本歴史	日本歴史学会	昭61. 5	1-42
7	「十訓抄の土佐判官道清」（古典文学作中人物事典・中世文学の作中人物一七〇人）	乾 克己	国文学解釈と教材の研究（臨時増刊）34・9	学燈社	平1. 7	1-43
8	奇談の時代	百目鬼恭三郎		朝日新聞社	昭53. 8	1-52
9	いくのの道・もみぢのにしき	伊吹 一	国文学解釈と教材の研究3・11	學燈社	昭33. 11	3-1
10	中世日本文学序説	築瀬 一雄		荻原屋文館	昭18. 9	3-6
11	「十訓抄の相撲弘光」（古典文学作中人物事典・中世文学の作中人物一七〇人）	乾 克己	国文学解釈と教材の研究（臨時増刊）34・9	學燈社	平1. 7	3-10
12	「行基菩薩遺誠」考—中世文学の一資料として—	木下 資一	国語と国文学706	東京大学	昭57. 12	4-1
13	「十訓抄の佐実」（古典文学作中人物事典・中世文学の作中人物一七〇人）	乾 克己	国文学解釈と教材の研究（臨時増刊）34・9	学燈社	平1. 7	4-3
14	日蔵説話の成立と展開—『十訓抄』編者菅原為長に関連して—	志村 有弘	説話文学の世界2 宇治拾遺物語	笠間書院	昭54. 5	5-17
15	日蔵上人蘇生譚に関する考察	山崎 裕人	国文学論考17	都留文科大学	昭56. 2	5-17
16	「十訓抄の藤原茂頼」（古典文学作中人物事典・中世文学の作中人物一七〇人）	乾 克己	国文学解釈と教材の研究（臨時増刊）34・9	學燈社	平1. 7	6-17
17	「貧僧の漁魚」説話鑑賞	村戸 弥生	芸文東海15	芸文東海	平2. 6	6-19
18	安養の尼の小袖	田所 寛行	国文学解釈と教材の研究3・11	學燈社	昭33. 10	6-38
19	「十訓抄の藤原実資」（古典文学作中人物事典・中世文学の作中人物一七〇人）	乾 克己	国文学解釈と教材の研究（臨時増刊）34・9	學燈社	平1. 7	6-34
20	説話集の物語論—「説話」のメタテキストとしての「説話集」—	前田 雅之	国語科通信76	角川書店	平2. 6	6-38
21	「十訓抄の藤原実資」（古典文学作中人物事典・中世文学の作中人物一七〇人）	乾 克己	国文学解釈と教材の研究（臨時増刊）34・9	學燈社	平1. 7	7-12

22	「十訓抄の禪師の君」(古典文学作中人物事典・中世文学の作中人物一七〇人)	乾 克己	国文学解釈と教材の研究(臨時増刊)34・9	學燈社	平1. 7	7-24
23	中世日本文学序説	築瀬 一雄		荻原星文館	昭18. 9	7-25
24	『十訓抄』『十段ノ篇』の序と童蒙教訓の書・要文抄	柳瀬喜代志	国文学研究109	早稲田大学	平5. 3	10序
25	いくのの道・もみぢのにしき	伊吹 一	国文学解釈と教材の研究3・11	學燈社	昭33. 10	10-3
26	日本の古典名文名場面一〇〇選 十訓抄	小林 保治	国文学解釈と教材の研究(臨時増刊)32・4	學燈社	昭62. 3	10-10
27	「十訓抄の藤原師綱」(古典文学作中人物事典・中世文学の作中人物一七〇人)	乾 克己	国文学解釈と教材の研究(臨時増刊)34・9	學燈社	平1. 7	10-74

9 『十訓抄』内容・一般に関する論文

1	十訓抄考	藤岡 断平	十訓抄詳解	明治書院	明35. 7	
2	十訓抄一節(評釈)	本居 豊穎	国学院雑誌	国学院大学	明28. 4	
3	十訓抄講義	木枝 増一	国文学講座9	受験講座刊行会	昭5. 8	
4	十訓抄に現はれたる新時代の提唱	時下米太郎	国語と国文学7・10	東京大学	昭5. 10	
5	十訓抄に表はれたる芸術・教養	大内 義郎	国漢研究	名古屋大学	昭8. 2	
6	十訓抄と道徳思想	藤岡 断平	日本精神叢書5	文部省思想局	昭11. 5	
7	十訓抄の出現	小田 泰正	史潮8・3	大塚史学会	昭13. 10	
8	十訓抄解釈問答一		国語解釈	瑞穂書院	昭13. 11	
9	中世国文学研究	後藤 丹治		磯部甲陽堂	昭18. 5	
10	中世日本文学序説	築瀬 一雄		荻原星文堂	昭18. 9	
11	岩波文庫本「十訓抄」望蜀語	小林 忠雄	歴史と国文学	太平社	昭19. 4	
12	12中世小説の研究	市古 貞次		東京大学出版会	昭20. 12	
13	中世説話文学の成立	西尾 光一	国語と国文学318	東京大学	昭25. 10	
14	史論・抄物一特に十訓抄について	柳田 国男	日本文学講座3(中世の文学)	河出書房	昭26.	
15	日本倫理思想史	和辻 哲郎		岩波書店	昭27.	
16	中世文学論 鎌倉文学篇	永積 安明		同心社	昭28. 6	
17	日本文化史Ⅲ 鎌倉時代	辻 善之助		春秋社	昭28. 6	
18	中世初期仏教教育思想の研究	唐沢富太郎		東洋館出版社	昭29. 2	
19	鎌倉後期の社会と十訓抄	小田 泰正	歴史教育3・7		昭30. 7	

『十訓抄』の研究状況と参考文献目録

20	中世文学の展望	永積 安明		東京大学出版会	昭31. 10	
21	宴曲抄「文武」「朋友」の成立—十訓抄との交渉について—	乾 克己	国学院雑誌59・8	国学院大学	昭33. 8	
22	十訓抄研究—作者の編纂態度についての一考察—	小野 幸子	国語国文学研究論文集5	北海道教育大学札幌分校	昭35. 3	
23	宴曲と中世説話文学	乾 克己	和洋女子大学文学部紀要5	和洋女子大学	昭35. 12	
24	十訓抄の組織について	高橋 貢	古典遺産10	古典遺産の会	昭37. 2	
25	宴曲抄「朋友」と十訓抄巻五「可撰朋友事」再説	乾 克己	国学院雑誌63・5	国学院大学	昭37. 5	
26	中世説話文学論	西尾 光一		塙書房	昭38. 3	
27	古典文学研究について 十訓抄	堀内 武雄	国文学解釈と教材の研究（臨時増刊）9・8	學燈社	昭39. 6	
28	十訓抄 —その説話文学中の地位を中心として	中野 猛	国文学解釈と鑑賞359	至文堂	昭40. 2	
29	院政期の歌壇史研究	橋本不美男		武蔵野書院	昭41. 2	
30	中世芸文の研究	筑土 鈴寛		有精堂	昭41. 12	
31	耳の芸	大島 建彦	日本文学の歴史5	角川書店	昭42. 9	
32	研究ノート・十訓抄の享受層について	田井久美子	史海	東京学芸大学史学会	昭43. 3	
33	十訓抄の道德理念	赤堀 孝	学術研究（人文科学・社会科学編）17	早稲田大学教育学	昭43. 12	
34	十訓抄と文鳳抄と百詠和歌	泉 基博	金沢文庫研究15・2		昭44. 2	
35	中世説話文学選	説話文学研究会		笠間書院	昭44. 5	
36	宇治拾遺物語と十訓抄	長野 管一	国語セミナ		昭44. 6	
37	日本文学研究資料叢書 今昔物語集	日本文学研究資料刊行会	日本文学研究資料叢書（第1次）	有精堂	昭45. 3	
38	十訓抄（序・跋）	三木 紀人	日本の古典9今昔物語	河出書房新社	昭46. 11	
39	「東斎隨筆」と「古事談」「十訓抄」の関係について	泉 基博	武庫川女子大学紀要18・人文科学篇	武庫川女子大学	昭46. 9	
40	古今著聞集に取り入れられた十訓抄の本文について	泉 基博	武庫川国文4	武庫川女子大学	昭47. 2	
41	説話文学研究	山岸 徳平		有精堂	昭47. 10	

42	日本文学研究資料叢書 説話文学	日本文学研究資料刊行会	日本文学研究資料叢書(第1次)	有精堂	昭47. 11
43	十訓抄の説話文学化について	志村 有弘	日本文学29	立教大学	昭47. 12
44	『十訓抄』と『徒然草』—その才芸論をめぐって—	古橋 恒夫	情念 4	情念の会	昭47.
45	説話の歴史的研究	関山 和夫		法蔵館	昭48. 3
46	日中比較文学の基礎研究 翻訳説話とその典拠	池田 利夫	笠間叢書39	笠間書院	昭49. 1
47	説話文学研究	築瀬 一雄		三弥井書店	昭49. 2
48	増補改訂日本説話文学索引(縮刷版)	境田 四郎 和田 克司		清文堂出版	昭49. 9
49	中世説話文学研究序説	志村 有弘		桜楓社	昭49. 11
50	中世道徳思想に関する基礎的考察—十訓抄を素材として—	福田 広子	政治経済史学132	日本政治経済史学研究所	昭52. 4
51	十訓抄の〈今昔物語集〉その一	富田 尚	日本文学研究14	梅光女学院大	昭53. 11
52	『発心集』『十訓抄』と読み本系平家物語—南都本から延慶本へ—	武久 堅	国語と国文学665	東京大学	昭54. 7
53	和歌説話の評語(1)—宇治拾遺物語・十訓抄・古今著聞集・沙石集の場合—	森山 茂	尾道短大研究紀要29	尾道短期大学	昭55. 1
54	説話文学論考	長野 菅一	笠間叢書146	笠間書院	昭55. 2
55	『古事談』	志村 有弘	教育社新書58	教育社	昭55. 8
56	古典の名句・名言333(日本の名句名言666)	藤本 徳明	国文学解釈と教材の研究(臨時増刊)32 ・ 4	學燈社	昭56. 7
57	処世	木下 資一	国文学解釈と鑑賞46 ・ 8	至文堂	昭56. 8
58	説話文学Ⅱ 中世篇	小峯 和明 鷹尾 純 田嶋 一夫 林 雅彦		双文社出版	昭57. 3
59	説話文学の構想と伝承	志村 有弘		明治書院	昭57. 5
60	宇治拾遺物語増補試論—冒頭語による古事談・十訓抄関係説話の考察—	山岡 敬和	国学院雑誌84・ 1	国学院大学	昭58. 1
61	説話文学における女訓について(一)	森山 茂	尾道短大研究紀要33 ・ 1	尾道短期大学	昭59. 3
62	「十訓抄」の序と東山枝橋の菅家墓所	乾 克己	和洋国文研究20	和洋女子大学	昭60. 3
63	『十訓抄』へのいざない	小林 保治	高校通信東書国語250	東京書籍	昭60. 4

『十訓抄』の研究状況と参考文献目録

64	説話と漢詩—『十訓抄』『著聞集』『撰集抄』に見る漢詩引用—	下西善三郎	鈴木淳一教授退官記念論文集	教育出版	昭61. 3	
65	今昔物語集と宇治拾遺物語 説話と文体	小峯 和明	日本文学研究資料新集 6	有精堂	昭61. 7	
66	十訓抄と古今抄	荒木 浩	国語国文55・7	京都大学	昭61. 7	
67	歌徳説話	泉 基博	日本伝奇伝説大事典	角川書店	昭61. 10	
68	連想と展開—十訓抄の表現(1)—	竹村 信治	説話・物語論集12	金沢古典文学研究会	昭61. 12	
69	『十訓抄』と歌物語	山本 一	説話・物語論集12	金沢古典文学研究会	昭61. 12	
70	『十訓抄』に於ける『古事談』の訓み—不、於、之—	泉 基博	武庫川国文29	武庫川女子大学	昭62. 3	
71	連想と読み替え—十訓抄の表現(2)—	竹村 信治	金沢美術工芸大学学報	金沢美術工業大学	昭62. 3	
72	日本文学講座3 神話・説話	日本文学協会	日本文学講座3	大修館書店	昭62. 7	
73	『十訓抄』の本文について(上)—『十訓抄』をよむために—	福島 尚	国語国文56・8	京都大学	昭62. 8	
74	The Courtly Model : Chomei and Kiyomoriin Jikkinsho	Ward Geddes	MONUMENTA NIPPONICA 42・2	上智大学	昭62. 夏	
75	『十訓抄』の本文について(下)—『十訓抄』をよむために—	福島 尚	国語国文56・9	京都大学	昭62. 9	
76	『十訓抄』に於ける『古事談』の訓み—動詞—	泉 基博	語文49	大阪大学文学部	昭62. 9	
77	中世散文学と漢文学—十訓抄を中心として—	竹村 信治	和漢比較文学叢書6 中世文学と漢文学II	汲古書院	昭62. 10	
78	「体源抄」所引の「十訓抄」について—受容の様相とその本文研究上の価値—	福島 尚	国語国文57・9	京都大学	昭63. 9	
79	『古事談抜書』本文考—『十訓抄』との交錯と独自異文—	田中 宗博	島原松平文庫蔵古事談抜書の研究	和泉書院	昭63. 12	
80	『今物語』から『十訓抄』へ—『今物語』第二話の書承関係を糸口にして—	坂口 博規	北海道駒沢大学研究紀要24	北海道駒沢大学	平1. 3	
81	時代別日本文学史事典 中世篇	有精堂編集部		有精堂	平1. 8	
82	教訓書『十訓抄』の性格に関する一考察—序文の解釈を緒として—	福島 尚	国語国文58・11	京都大学	平1. 11	
83	『十訓抄』に於ける和歌—先行文献からの考察—	泉 基博	和歌史の構想	和泉書院	平2. 3	
84	古典教材としての『十訓抄』	比良 輝夫	史料と研究20	札幌大学	平2. 6	
85	『十訓抄』の女性観	追塩 千尋	史料と研究21	札幌大学	平2. 10	
86	日本文学研究大成 今昔物語集	池上 洵一	日本文学研究大成	国書刊行会	平2. 10	

87	『十訓抄』の教材化について	比良 輝夫	釧路論集22	北海道教育 大学釧路分 校	平2. 11	
88	大江定基出家遁世説話における『宇治拾遺物語』と『十訓抄』の対照的特徴	勝部奈津子	島根国語国文創刊号	島根県立島 根女子短期 大学	平2. 12	
89	日本文学研究大成 中世説話 I	藤本 徳明	日本文学研究大成	国書刊行会	平4. 4	
90	中世教訓説話研究	菅原 利晃	研究抄録 1	北海道教育 大学大学院 教育学研究 科	平6. 3	

付 『寝覚記』参考文献目録

1	鎌倉室町時代文学史	藤岡作太郎		岩波書店	大4. 5	
2	岩波講座 日本文学 室町時代	後藤 丹治		岩波書店	昭7. 3	
3	一条兼良	福井 久蔵	日本の思想家叢書	厚生閣	昭18. 4	
4	寝覚記新考—主として其の出典, 著作年代, 著者の問題に就いて—	小林 忠雄	日本文学研究18	日本文学研 究会	昭25. 8	
5	ねざめの記	朝倉 治彦	典籍 8	典籍同好会	昭28. 9	
6	寝覚記小考	村田 秋男	東洋大学大学院紀要 10	東洋大学大 学院	昭49. 2	
7	寝覚記に取り入れられた十訓抄の本文	泉 基博	武庫川国文 6	武庫川女子 大学	昭49. 3	
8	寝覚記〈彰考館本〉	村田 秋男	古典文庫411	古典文庫	昭55. 12	
9	寝覚記伝本私考(上)	村田 秋男	東洋大学大学院紀要 18文学研究科	東洋大学大 学院	昭57. 2	
10	寝覚記伝本私考(中)—その一	村田 秋男	東洋19・7	東洋大学通 信教育部	昭57. 7	
11	寝覚記伝本私考(中)—その二	村田 秋男	東洋19・8・9	東洋大学通 信教育部	昭57. 9	
12	中世説話文学の研究 上・下	原田 行造		桜楓社	昭57. 11	
13	寝覚記	浅見 和彦	日本古典文学大辞典	岩波書店	昭59. 4	
14	寝覚記	小島 孝之	別冊国文学33今昔物 語集宇治拾遺物語集 必携	学燈社	昭63. 1	
15	『寝覚記』研究—出典及びその影響に 関する考察—	菅原 利晃	国語国文学科研究論 文集35	北海道教育 大学札幌分 校	平2. 3	
16	『寝覚記』出典考	菅原 利晃	国文学研究叢書 6 和 歌と説話文学篇	北海道教育 大学札幌分 校	平2. 4	
17	説話の世界	浅見 和彦	日本文学新史中世	至文堂	平2. 7	